

みずきたただより

第12号

令和8年2月28日

瑞穂野北小学校

発行者 阿久津 浩久

— かしこく やさしく たくましく —



天気予報でも暖かな陽気の訪れを伝えることが増えてきました。23日には2年ぶりの「春一番」の発表があり、先日は久しぶりの恵みの雨、今後も気温の動きはあるものの、気が付くと敷地内の梅も花を咲かせていました。人によっては目や鼻が何かに反応するようになってきたようで、着実に春の訪れを感じています。

2月の初めには急に体調不良者が増え、学級休業や授業参観の延期等、インフルエンザの影響でご心配をおかけしましたが、何とか最小限の対応で乗り切ることができました。

卒業式・修了式までの登校日もあと20日を切りました。年末、今回とインフルエンザの流行の波が二度も押し寄せるとは想像もしていなかったところですが、引き続き体調管理に努め、一日一日を大切に過ごすことを心がけながら1年間のまとめを進めていきたいと思えます。

うつのみや学校マネジメントシステム アンケート結果から

皆様にご協力いただきましたアンケートの集計結果が出されました。人数が少ないので数字の変動は大きいのですが、評価項目の中から、いくつか紹介します。

| No. | 評価項目 | 肯定的な回答の割合 (%) | | | | | | | |
|-----|---|---------------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|
| | | 児童 | | 教職員 | | 保護者 | | 地域住民 | |
| | | R6 | R7 | R6 | R7 | R6 | R7 | R6 | R7 |
| 1 | 児童は他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 | 88.8 | 91.3 | 100.0 | 88.2 | 87.5 | 82.9 | | |
| 2 | 教職員は、わかる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 | 93.6 | 95.2 | 100.0 | 100.0 | 87.7 | 78.8 | | |
| 3 | 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。 | 92.8 | 92.9 | 100.0 | 100.0 | 77.2 | 75.7 | 100.0 | 100.0 |
| 4 | 教職員は不登校を生まない学級経営を行っている。 | 88.8 | 92.1 | 100.0 | 100.0 | 78.0 | 81.2 | | |
| 5 | 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 | 92.0 | 92.1 | 100.0 | 100.0 | 70.4 | 66.7 | 94.4 | 95.0 |

評価項目1では、児童の肯定的回答が上昇しました。今年度、本校では授業改善を目指した校内研修において、児童どうして「学び合う」活動を意識して研究しています。また、自分の考えを正しく伝えられるよう月に一度、朝の学習の時間に話し方や聞き方の練習を行っています。これらの取組が児童の意識にも影響し、能動的な学習への姿勢が育ち始めたのだと捉えています。引き続き児童の意欲を高めていきたいと思えます。

2でも児童の肯定的回答が上昇しました。難しい部分は細かく丁寧に、児童が既習事項やこれまでの学びを生かして自力解決できる場所は任せて見守る姿勢で「できた!」、「わかった!」という達成感を味わわせていければと考えます。一方、保護者の回答が下がっていることから、互いに学び合う授業、達成感のある授業を日常的に充実させ、学校公開等の折にも披露できるよう、取り組んでいきたいと思えます。

3は、今年度本校が重点項目とした内容です。数値は昨年とほぼ同じでした。学級としての安心感や安定感無くしては教育活動の充実は達成できないと考えます。担任一人一人がしっかりと使命感と教育観を持ち、一人一人が自己肯定感や自尊感情を高められるような取組を継続していきたいと思えます。

4については、児童、保護者ともに数値が上昇しました。引き続き不登校の未然防止に注力するとともに、児童一人一人が自分の強みを生かし、人の役に立っているという自己有用感を高められるような居がいのある学級経営に努めたいと思えます。

5については、昨年度も保護者の回答が低かったところを真摯に受け止め、学校全体で全児童をみていくという姿勢で児童指導主任を中心に月一度の情報交換会やケース会議等を行ってきたところですが、保護者の回答がさらに低下するという結果でしたので、早期発見・早期対応に向け取組の改善に努めたいと思えます。

6年生を送る会 2月18日

卒業式まであと1か月となりました。4月から学校の顔としてふんばってきた6年生。少ない人数で例年同様の役目を果たすことは何かと大変だったところがあったと思います。がんばりぬいた6年生へ感謝の気持ちを伝えようと、5年生が中心となって在校生みんなで準備を進めてきました。早いうちから話し合いを進め、縦割り班でのクイズやゲーム、歌のプレゼント、一人一人へのお手紙など、心のこもった温かいひと時となりました。



祝受賞 おめでとうございます！

毎朝児童の登校を見守ってくださっているスクールガードリーダーの青木実さんですが、長年にわたる功績がたたえられ、宇都宮南警察署から功労者としての表彰を受けられました！いつもありがとうございます！



先生たちを支える先生…教員業務支援員を紹介します

全国的に教員の働き方改革が叫ばれている昨今、「教員業務支援員」は、子供たちのために学校現場で働く仲間の一人ですが、その役割には働き方の改善により教師が授業改善や教材研究を充実させることにあります。

本校では土谷智香子支援員が勤務しています。来校したことのある方であればどこかでお見かけしたような…と思える人も多いのではないのでしょうか。主な業務は「子供たちの家庭学習の確認・添削」、「授業で使用するワークシート等の印刷」、「廊下等の掲示物の貼り替え、装飾」など、本来担任等が行ってきたものです。これらのいわば「見えない仕事」をサポートすることで、教員を、そして子供たちを支えています。単学級がゆえ、教員一人一人が学級担任だけでなく学年主任の役割も果たさなければならないところですが、おかげで教材研究や授業改善の時間をもつことができていることも、前出した学校評価の結果に表れているのではないかと捉えています。



子供が大好きな土谷先生、子供たちに直接関与しない立場ながらも穏やかな人柄とホッとする笑顔、親身になって寄り添う立ち振る舞いにひかれて仲良しの子もたくさんいます。土谷先生のバイタリティは計り知れず、上記以外にも学習ボランティアの補助、清掃がない日の廊下や階段の掃除、職員室や印刷室の整理整頓など、かゆいところに手が届きまくる、スーパーな縁の下の力持ち、なのです。

土谷先生の貢献は表立っては見られないかもしれませんが、学校のいたるところに土谷カラーを実感できると思いますので、ぜひ探してみてください！

コラム ～2:7:1の法則～

タイトルの「2:7:1」、6年生の算数で学習する「比」ですが、実はこれ、「人間関係の法則」とも言われています。アメリカの心理学者であるカール・ロジャースという人が提唱したもので、「自分の周りにいる10人を観察した場合に、2人が気の合う人（自分に好意的）、7人がどちらでもない人、そして1人は気が合わない人（自分に否定的）である」という考え方です。これは経験則ですので、必ずこうなるわけではありませんが、どんな集団でもおおむねこのような傾向があるということです。あの大谷翔平選手でさえファンもいればアンチもいます。

集団では、どうしても「1人の気が合わない人」に意識が向きがちです。しかし大切なのは「2人の気の合う人」、「7人のどちらでもない人」と、どう良好な関係を築いていくかということです。合わない人とはどう頑張っても合わないもので、無理をすれば疲弊してしまいます。子供たちは関係づくりが未熟なので、改善される可能性は高いですが、ある程度がんばったら「合わない人もいる」ことを受け入れ、割り切ることも大切です。本校の場合は単学級なので、その1人と全くかわからないことは難しいのですが、まず2人や7人と良好な関係を築いていき、コミュニケーション力を高めたうえで、クラスメートとして1人ともうまく付き合っていくことが6年間を充実して過ごせるための秘訣ではないかと思ひ、紹介させていただきました。